

地盤検討委員会

日 時：平成17年8月11日(木)
9:30～11:30
場 所：KKR熊本2F 城彩会場

会 議 次 第

委員会

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 経緯と概要

(1)「第1回瀬目トンネル検討委員会」の審議内容について

(2) 検討箇所の概要について

4. 議事

(3) 調査地周辺の地質解析について

(4) 調査地周辺の地山変動解析について

(5) 調査計画について

(6) その他

5. 閉会

地盤検討委員会（仮称）

設 立 趣 意 書

川辺川ダム建設に伴い付け替えられた国道445号は、地域住民の生活を支える唯一の重要な路線であり、供用を開始しているところである瀬目トンネルにおいて、地盤変動が原因と考えられる変状が発生しており、その機構解明にはいたっていない。

このため、国道445号の通行の安全の確保及び将来の貯水池保全を確保し地域住民の安全・安心に万全を期するために、地盤変動機構の解明及びその対応方針について、高度で専門的な知識を有する学識経験者・専門家等の意見を反映させるための委員会を設置するものである。

地盤検討委員会

委員名簿

氏名	所属・役職名
なかむら ひろゆき 中村 浩之	東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 教授
いわお ゆうしろう 岩尾 雄四郎	佐賀大学 理工学部 都市工学科 教授
よしまつ ひろゆき 吉松 弘行	(社)日本地すべり学会 副会長
やすだ なりお 安田 成夫	国土交通省 国土技術政策総合研究所 ダム研究室長
ひらの いさむ 平野 勇	独立行政法人 土木研究所 地質官
よしだ ひとし 吉田 等	独立行政法人 土木研究所 水工研究グループ長
ふじさわ かずのり 藤澤 和範	独立行政法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべり上席研究員
みつなり まさかず 光成 政和	国土交通省 九州地方整備局 河川部 河川調査官
あさほり やすあき 朝堀 泰明	国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所長

地盤検討委員会議事要旨

日 時：平成 17 年 8 月 11 日(木) 9:30～11:30

場 所：KKR ホテル熊本 2 階 城彩の間

出席者：中村浩之委員長、岩尾雄四郎委員、吉松弘行委員、安田成夫委員、平野勇委員、
吉田等委員、藤澤和範委員、光成政和委員

議 事

(1)調査地の地形・地質解析

- ・瀬目トンネル周辺の地形・地質の概要について説明がなされた。
- ・現在までに実施された地表踏査およびボーリング調査結果により、調査地の地質は上下流部を硬質な砂岩の尾根によって区切られ、その間に相対的に軟質な砂岩粘板岩互層が分布している。
- ・トンネルの上部斜面においてトンネルに直交するように設けられた A-B 測線では深部方向に主として砂岩粘板岩互層が分布し、やや亀裂の多い CL 級岩盤と亀裂の少ない CM 級岩盤が交互に現れ、いくつかの深度において亀裂の最も多い D 級岩盤を挟んでいる。また、川辺川の流向に対して直交するよう設けられた A-A' 測線上位標高部では深部まで CL 級岩盤が厚く分布し、その深部に D 級岩盤が存在している。
- ・深部の D 級岩盤の分布状況および、性状について今後更に調査が必要であると判断された。

(2)調査地の地盤変動解析

- ・トンネル覆工の変状発生後、平成 13 年度から実施された大深度ボーリング孔における地盤変動について説明がなされた。
- ・孔内傾斜計の計測結果によると、平成 14 年度以降変位の累積傾向が認められる孔があるが、反面、明瞭な変動の認められない孔もある。累積傾向が認められる場所の岩盤はいずれも D 級岩盤である。
- ・累積傾向の認められる位置は 50～90m と深い所にあり、年平均変位はわずかである。現在までの資料では降雨等との関係は認められず、また加速傾向が認められないので、今後、急速な地盤変動が生じる可能性は極めて小さいと判断された。
- ・地盤変動の範囲は明確になってはおらず、範囲を特定するための調査が必要であると判断された。

(3)調査計画

- ・上記(1)と(2)の議論を踏まえ、調査計画が提案され、次項の点を追加検討することで了承された。
- ・地盤変動の機構解明のため、トンネル変状計測と地盤状況との関係の把握、地表面における地形地質調査、地表変状の状況について、調査する必要がある。

(4)その他

- ・調査計画に示された調査の結果がある程度まとまった段階で、次回委員会を開催することとした。